



平成 18 年 9 月 28 日

今泉 卓也 様

社団法人 日本建築家協会 (JIA)  
関東甲信越支部 支部長  
同 保存問題委員会 委員長  
同 世田谷地域会 代表



### 坂倉準三設計「旧飯箸邸」の保存に関する要望書

拝啓 時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます

さて、「旧飯箸邸」は、ご承知のように 1941 (S16) 年に建築家・坂倉準三の設計により竣工した、昭和期を代表する住宅建築です。この住宅は、今泉篤男氏と坂倉準三の東京大学時代の共通の恩師である團伊能氏 (美術史家・実業家・参議院議員) が建設した別荘であり、その後教え子である今泉篤男氏に譲られ、以後長年に渡り今泉様が大切に住み続けてこられました。

坂倉準三は、戦前、フランスで建築家・ル・コルビュジェに師事し、当時の新しい建築思潮であったモダニズム建築をル・コルビュジェから直接学びました。坂倉は戦後その成果を遺憾なく発揮し、神奈川県立近代美術館 (鎌倉) を始めとする多くの優れた建築を残しました。また、私共日本建築家協会においては 2 期に亘り会長職を務めるなど、建築家の職能の確立にも努力し、1960 年には世界デザイン会議を東京で開催する為に尽力し、建築のみならず日本の戦後のデザインを世界の中で位置づける大きな功績をおさめた建築家として、今なお建築家のみならず多くの文化人から尊敬を集めております。

貴「旧飯箸邸」は現存する坂倉の唯一の戦前の住宅作品であり、その後の坂倉作品の展開の原点としてきわめて重要な作品です。また、戦前期日本におけるモダニズム建築の展開を考える上においても歴史的な重要性を持つ作品であると考えられ、モダニズム建築に関する調査・保存の活動を広範に展開している国際組織である DOCOMOMO (ドコモモ) の日本の組織であるドコモモ・ジャパンが選定した 115 選にも選ばれました。

今般、諸般の事情から「旧飯箸邸」の存続が困難な状況となっていることはよく承知しております。日本建築家協会と致しましては、今泉様が長年に亘りこの住宅をきわめて原型に近い形で維持されてきた事に深く敬意を表すると共に、珠玉のモダニズム建築と考えられる「旧飯箸邸」の保存に関しご理解を頂き、その保存の可能性にご支援頂きますようここにお願い申し上げます。

なお、社団法人日本建築家協会関東甲信越支部、同 保存問題委員会および同 世田谷地域会は、「旧飯箸邸」の保存活用について、出来る限りの協力をさせて頂く所存である事を申し添えます。

敬具